

参考 | プラン策定に当たって

“多摩の明日を考えるワークショップ”の開催

本プランの策定に当たって、多様な方々の意見・アイデアを取り入れるため、多摩で地域活動に取り組んでいる方々を中心としたワークショップを開催しました。

〈目的〉

多摩で地域活動に積極的に取り組んでいる方々を中心としたワークショップを開催し、その成果をプランに取り入れることで、都民ファーストの都政の実現につなげる。

〈テーマ〉

「2020年の先を見据えた、多摩の目指すべき姿について」
～多摩の持続的発展のために、何が必要か～

〈開催日、開催場所〉

- ・平成 29 年 5 月 20 日（土曜日）12:30～16:30 あきる野 ルピア
- ・平成 29 年 5 月 21 日（日曜日）13:00～17:00 東京外国語大学

〈対象者及び参加人数〉

- ・多摩地域に在住・在勤（学）し、地域活動に積極的に取り組んでいる自治会、NPO、ボランティア、事業者、学生などの方々から選定
- ・65 名（5 月 20 日：31 名、21 日：34 名）

〈実施方法〉

- ・ファシリテーターを置き、議論を進行
- ・1 グループ 5 名程度で、6 グループを編成して議論し、発表

〈プログラム（ワークショップの進行）〉

- ① セッション 1 前半は、「環境分析（外的環境：私達のまちの中にあるもの）」として、各自で「Keep：残したいこと、変えたくないこと」、「Change：変えたいこと」、「Grow：育てたいこと」の 3 つについて、思うことをワークシートに書き出し、模造紙を作成
- ② セッション 1 後半は、「環境分析（内的環境：私たちの心の中にあるもの）」として、各自で「Proud：誇り」、「Sorry：心残り」の 2 つについて、思うことをワークシートに書き出し、模造紙を作成

- ③ セッション2は「未来ビジョンの提示」として、理想のまちのイメージ～2040年のまちの姿～について各自でポストイットに記入、模造紙に貼付しグループ内で発表
- ④ セッション3は「未来への懸け橋」として、前のセッションで完成した模造紙を参考に、どんなことに取り組んで行けばいいのかを考えグループ内で共有、アイデアをまとめ模造紙を作成
- ⑤ 完成した模造紙をグループごとに会場の壁に貼付し、それを見学者も含め、皆で自由に歩き見て回り、質問、意見交換等を行うという方法で発表(ギャラリーウォーク)

〈当日の状況〉

ファシリテーターの進行の下、3つのセッションに分けてワークショップを実施した。

参加者それぞれが、多摩地域の良さや、改善すべき点、発展させていきたい部分などに思いを巡らし、それを他の参加者と共有・議論することで、多摩の目指すべき未来について、グループ内での認識を深めていった。

どのグループにおいても、「私は多摩のここが好きだ」、「多摩をこうしたい」、「多摩がこうであつたらもっと便利だ」などの意見が飛び交い、白熱した議論が展開された。

ギャラリーウォークでは、各自がポストイットやシールを手に持ち、気に入った意見にコメントを残したり、「いいね」と思った意見にシールを貼ったりし、また、その場で質問したりするなど、賑やかな明るい雰囲気での発表の場となった。



ワークショップの様子
(上:あきる野ルピア、下:東京外国語大学会場)



アイデアをまとめた模造紙



ギャラリーウォークの様子

なお、21日（東京外国語大学）には、小池都知事がワークショップの様子を視察し、挨拶の後、各グループを回り、参加者と意見交換を行った。



小池都知事がワークショップ(東京外国語大学会場)の様子を視察

〈ファシリテーター〉

- ・竹内 千寿恵 氏（NPO法人MY style @ 代表理事）
- ・角田 知行 氏（NPO法人MY style @ 理事）
- ・友松 恵子 氏（国際コーチ連盟認定 Associate Certified Coach
Coach KECO 代表）

〈参加者（敬称略）〉

5月20日（あきる野ルピア）31名

5月21日（東京外国語大学）34名

氏 名	所 属	氏 名	所 属
相澤 美沙子	NPO法人フジの森	池上 直輝	多摩信用金庫
相羽 健太郎	相羽建設(株)	石原 靖之	(株)グッドライフ多摩
荒井 徹也	京王電鉄(株)	市川 順子	作ろう！みんなのジモトWa-shoi パートナーシップ
市川 ひとみ	認定NPO法人多摩こども劇場	市川 望美	非営利型株式会社Polaris
大野 浩子	NPO法人子ども広場あそべこどもたち	岩下 光明	(株)まちづくり立川
岡本 光子	NPO法人シーズネットワーク	小俣 みどり	NPO法人子育てネットワーク・ピッコロ
方瀬 りっか	東京学芸大学	小山田 佳代	一般社団法人教育支援人材認証協会
加戸 佐織	(有)ユニゾン	北島 彩子	多摩信用金庫
神村 葉	創価大学（八王子学生委員会）	國廣 純子	青梅市中心市街地活性化協議会
栗山 丈弘	こだいら観光まちづくり協会	小坂 太一	自営業
菅原 和利	(株)東京・森と市庭	小崎 奈央子	(株)けやき出版
陶山 慎治	町田市鶴川地区協議会	小山 裕二郎	立川市役所
曾田 由紀子	(株)ミゲル	佐藤 うらら	(株)にわと蔵
高橋 藍	一般社団法人アートレイツ	清水 雄一郎	清水農園
竹本 佳文	首都大学東京	下田 智道	下田みかん園
中島 大輔	NPO法人青梅りんけん	関谷 昂	東京外国語大学
中平 健二郎	日野市役所	田口 友子	(株)三菱総合研究所
西仲 鎌司	(株)河内屋	竹中 裕子	NPO法人ちようふ子育てネットワーク・ちょこネット
沼倉 正毅	奥多摩青梅レンタサイクル トレックリング	田中 えり子	くにたち地域コラボ
沼崎 明広	多摩信用金庫	堤 香苗	(株)キャリア・マム
橋本 直子	小平はぐくみプロジェクト	殿田 俊三	東久留米市氷川台自治会
羽生 洋一郎	日の出町商工会	中村 璃沙	東京経済大学
羽村 綾那	羽村市役所	南部 良太	農業デザイナー
昼馬 よし江	西多摩マウンテンバイク友の会	濱原 幸恵	福生市公民館松林分館
堀池 喜一郎	好齡ビジネスパートナーズ	畑谷 貴美子	三鷹市・地域ケアネットワークしんなか
本間 博道	(株)立飛ストラテジーラボ	蜂谷 樹乃	東京外国語大学
門田 裕子	イラストレーター	林 丈雄	NPO法人エンツリー
溝口 常之	NPO法人ひの市民活動団体連絡会	菱沼 勇介	(株)エマリックくにたち
山崎 健司	青梅市役所	平岡 恵美子	就活保健室
山本 大地	(株)シグマ開発計画研究所	藤井 麻由美	府中市民活動センター運営プラッツ
山本 由佳理	八王子ママの会	藤田 昭江	AnniBirthColor
		間瀬 英一郎	CESAくにたち
		目澤 弘康	武蔵野市役所
		横山 雅敏	小平市役所

ワークセッションにおける意見のプランへの反映について

ワークセッションにおける主な意見 (未来像や取組の方向性)		プランにおける反映状況	施策の方向性（抜粋）
まちづくり	多摩は健康で生きがいの実現できる地域として有名に	【安全・安心で快適な居住・生活環境が確保され、ゆとりあるライフスタイルが定着】 ・駅などを中心に、買い物・飲食等の日常的な生活サービスに加え、医療・福祉、コミュニティなどの多様な機能が集積した拠点が形成されるとともに、公共交通と一体となった楽しく歩きだすための広場空間が創出（P124） ・まちのあちこちに、コミュニティスペースやベンチなどが設けられ、高齢者や子供など多様な世代の人々が楽しく語らっている（P124） ・多摩ニュータウンなどの大規模団地は、良質なストックとして再生され、保育園、コンビニエンスストア、図書館など、生活に必要な機能を備え、多様なライフスタイルに対応できる暮らしの場となっている。また、緑やオープンスペースの確保により、多様な世代が集うにぎわいのあるまちとして、活力を取り戻している（P124）	【集約型の魅力あふれるまちづくり】 ・主要な駅等を中心に、業務・商業施設や文化・交流施設等の立地を、周辺の拠点との役割分担を踏まえて誘導する（P126） ・身近な駅や商店街等において、生活に必要な機能や高齢者・子育て世代の憩いの場、教育、起業支援などの機能の導入を誘導（P126） ・空き家をコミュニティ施設や保育所、サービス付き高齢者向け住宅等へ改修・転用するなど、地域の活性化や福祉の充実等に資する施設等として活用（P126） ・空き家を活用した住宅地におけるカフェやレストランなどの立地等、複合的な土地利用を誘導し、新たなにぎわいや交流を生み出す（P126）
	いろいろな人が集まれる利便性のあるコミュニティを増やし、世代別で参加できるようなイベントを企画		
	空き家を活用して、コミュニティサロンや、高齢者と学生のシェアハウス、留学生用のドミトリなどに		
	街の中に人がいて賑わっている		
	二世帯住宅が珍しいことではなくなっている		
	景観をよくして（電線の地中化など）パリのようになっただけになる街に		
	テレワークセンターが各駅にあり、直売所、保育園、デイケア、おかず屋さん、ワンストップであって、働くママに優しいまちになっている		
	子育てでコミュニティカフェなど、ママ同士が繋がれる場を増やす		
	地域で子育てが行われている		
子育て		【安全・安心で快適な居住・生活環境が確保され、ゆとりあるライフスタイルが定着】 ・保育施設・サービスがより一層充実し、誰もが、安心して出産し、仕事と両立しながら子育てすることができている環境を整備（P124）	【子育て環境にすぐれ、高齢者などが安心して、いきいき暮らせるまちづくり】 ・都営住宅をはじめとする公的住宅の創出用地を、保育所等子育て支援施設の整備に活用（P129） ・駅周辺やオフィスなど人が集まる場所において、開発等のまちづくりの動きに併せて、授乳室や利用しやすいトイレ等子育て支援機能を誘導（P129） ・地域の人々が子供たちを見守り、育て、支え合える環境をつくるため、三世帯近居を推進（P129）

ワークショップにおける主な意見 (未来像や取組の方向性)		プランにおける反映状況	
将来の地域イメージ（抜粋）		施策の方向性（抜粋）	
高 齢 者	地域の高齢者が毎日楽しそうに集って、笑顔で日向ぼっこしている	【安全・安心で快適な居住・生活環境が確保され、ゆとりあるライフスタイルが定着】 ・まちのあちこちに、コミュニティスペースやベンチなどが設けられ、高齢者や子供など多様な世代の人々が楽しく語らっている（P124） ・元気な高齢者が自らの経験や知識を生かして、生涯現役で働いたり、ボランティア活動をしたりするなど、幅広く社会で活躍し、生きがいを持って暮らしている（P124） ・介護ロボットや自立を支援するロボットを活用しながら、高齢者や障害者は安心して快適な日常生活を送っている（P124）	
	高齢者や子供が一緒に交際している		
	元気な高齢者を増やす（高齢者の社会活動が普通になっている）		
	ロボットとかナノ技術ができて、お年寄りでも自由に移動できたり活動できる		
道 路	広域につながった道路・交通ネットワークができ、南北の行き来もしやすい地域に	【主要南北・東西道路をはじめとする道路ネットワークの整備促進】 ・多摩地域の渋滞解消等に資する多摩南北道路や南多摩尾根幹線の整備に加え、利便性の向上により重点を置き、新五日市街道線等の多摩東西道路の整備を推進（P143） ・「東京における都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）」に基づき、優先整備路線の計画的な事業化に取り組み（P143）	
	渋滞などがなく誰もが行きたい場所へ自由に行ける		
交 通	多摩都市モノレールが武蔵村山から町田まで完成。中央線の複々線化実現	【公共交通ネットワークの充実と快適な交通環境整備の促進】 ・多摩都市モノレールやJR中央線の複々線化などが示された、交通政策審議会答申を踏まえ、検討を進め、鉄道ネットワークを充実させる（P146） ・多摩地域のアクセス強化に資する多摩都市モノレール延伸の検討の深度化を図る（箱根ヶ崎方面、町田方面）（P146） ・バスやタクシー、デマンド交通、自転車などの交通モードと最先端技術を組み合わせ、駅を中心とした誰もが移動しやすい交通環境を充実（P147） ・鉄道とバス・タクシーの結節機能の強化や、自動運転技術等を活用した次世代交通システムの導入、デマンド交通の運行など、地域の交通の充実に向けた市町村の取組を支援（P147） ・交通不便地域において、自動運転などの最新技術を活用した交通手段の導入を支援（P147） ・自転車走行空間、駐輪場の整備などにより、自転車の利用環境を充実（P147）	
	公共交通の再整備など、移動手段の充実		
	コミュニティバスなどいろいろなところに行けるようになっている（バス停では楽しみに過ごす人たち）		
	多摩が自動運転先進地に（車の免許がいらない、事故のないまち）		
タクシーが自動運転			
自転車で移動しやすい環境整備がされている（フルレーン）			

ワークショップにおける主な意見 (未来像や取組の方向性)		プランにおける反映状況	
将来の地域イメージ（抜粋）		施策の方向性（抜粋）	
産業	大企業等の研究所が集まる（先端の研究所や、ベンチャーの誘致）	【地域資源を生かした産業振興により地域活性化が図られ、身近な場所で開催るまち】 ・大企業等の研究所が集積することともに、新しい研究や産業に積極的に挑戦できる場を求めて、国内外から優秀な人材が集まり、新たな価値を生み出している（P148） ・良好な環境を求めて先端企業が進出し、産学官連携が一層促進される中で、斬新な発想からイノベーション（新たなビジネス）が次々に生まれている（P148）	【イノベーションの創出や地域産業の維持・発展】 ・大規模工場跡地や公的住宅の建替え創出用地等を活用し、地元自治体や民間企業などによるイノベーション創出に向けた拠点づくりを支援（P150） ・市町村と連携しつつ、ニーズに応じた柔軟で複合的な土地利用を展開することで、先端産業やものづくりなど、イノベーションを創出する企業の立地を誘導（P150） ・駅周辺の開発等の機会を捉え、ビジネスマツチング機能の導入やイノベーション施設の整備を誘導（P151） ・先端企業や大学、研究機関等の連携を強化しつつ、航空宇宙や健康・医療・環境・危機管理など、成長が見込まれる産業分野への参入促進や技術開発支援を推進（P151） ・中小企業の技術やノウハウの継承、地域産業を担う新たなネットワークの構築等を行うとともに、地域コミュニティの核でもある商店街への支援を通じ、地域経済の維持・発展を図る（P151）
	地域リビング・ラボ（市民、企業、大学、行政の共同研究の場）における対話により、ニーズとシーズのマツチング、イノベーション環境が生まれる		
	技術力のある中小企業と連携（脱下請け）		
	個人店、商店街が復活している		
	観光地としての地位を確立している（観光名所が増え、多くの観光客が楽しんでいる）		
観光	自然を生かした体験型ツアー（エコツーリズム、グリーンツーリズムなど）の創出	【国内外から多くの人々を呼び込む観光まちづくり】 ・豊かな自然や、歴史、文化、産業など、多摩地域固有の資源を有効に活用し、体験型の要素を取り入れた観光ツアー造成等を推進（エコツーリズム、グリーンツーリズム等）（P153） ・見学・体験ツアー等への森林資源の活用や、林道のトレイルランコースとしての開放など、産業としての重要性を啓発するとともに、観光資源としても活用（P153） ・移動、飲食、宿泊等、様々な場面における多言語対応を進める（P153） ・観光関連団体や商工関連団体、商店街、自治体など多様な主体が連携した広域的な取組等を支援（P154）	
	外国人がゆったり訪れるエリア		
	多摩広域観光が実現している		
農 業 ・ ブ ラ ン ド 化		【都市農業の振興】 ・女性や若者、企業、NPO法人など、都市農業の多様な担い手の確保・育成を図っていく（P156） ・生産緑地地区の指定拡大を図るとともに、農地周辺におけるレストラン等の立地を可能とする田園住居地域を活用し、都市農地の保全・活用を促進（P156） ・多摩産農産物の学校給食への供給拡大や産地見学会等、食育を通じて地産地消の更なる拡大につなげていくほか、市民農園等の整備や学校教育との連携などにより、多様な農作業の体験機会の充実を図っていく（P157）	

ワークショップにおける主な意見 (未来像や取組の方向性)		プランにおける反映状況	施策の方向性 (抜粋)
農 業 ・ ブ ラ ン ド 化	週末農業 (都心からも通えるユニファーム、オシャレな取組体験イベントの開催など)	【地域資源を生かした産業振興により地域活性化が図られ、身近な場所で働けるまち】 ・女性や若者など多様な担い手が、都市農業に従事する傍ら、農家レストランを経営するなど、多摩産農産物の地産地消が進むとともに、多摩ブランドを世界に発信 (P148)	【都市農業の振興】 ・防災(防災兼用の農業用井戸の整備等)や環境保全、教育、レクリエーション、コミュニケーション形成など、都市農業の多面的機能を発揮させる地元自治体の取組を支援 (P157) 【集約型の魅力あふれるまちづくり】 ・空き地や耕作放棄地を農園付き住宅や滞在型農園として活用するなど、ゆとりある暮らしのニーズへの対応を図る (P127)
	オーベルジュ、クラインガルテンを多摩で(美味しくオシャレな農業のイメージを発信)	・住居地の近くにある貸し農園では、土に触れる暮らしを体験しながら、採れたての野菜を楽しむ家族連れなどでにぎわっている (P148)	【多摩産品のブランド化の推進】 ・独自のPRや販売方法の検討、加工品などの新商品の開発、地域団体商標等を活用した地域ブランド化などによる差別化、高付加価値化の取組を推進 (P159) ・女性や若者の感性も取り入れた6次産業化による加工品の開発、マルシェへの出店、農家レストランの開発など、創意工夫を凝らした取組を支援 (P160)
	地元産の野菜や果物がいっぱい(地産地消の推進、フルーツレストラン)		・多摩産材の普及、利用拡大に向け、公共施設や民間住宅などにおける活用を促進するほか、多摩産材を使用したデザイン性の高い新製品の開発を推進 (P160)
	全国、世界的に“TAMAといえばO”というブランドがある		
	林業(多摩産材)のさらなるブランド化		
働 き 方	多摩地域の学生と企業のマッチング(若者の定着へ)	【地域資源を生かした産業振興により地域活性化が図られ、身近な場所で働けるまち】 ・主要な駅周辺などにテレワーク拠点が整備される、また、保育園にコワーキングスペースができるなど、職住近接や柔軟な働き方が定着 (P148)	【身近な地域で働ける環境の整備】 ・求職者の特性に応じたキャリアカウンセリング、セミナー、職場体験、職業紹介まで、雇用就業に関する一貫したサービスをワンストップで提供 (P162) ・誰もか、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方ができるよう、在宅勤務やサテライトオフィスを活用したテレワークの普及を図る (P162)
	多摩にサテライトオフィスやテレワーク拠点がたくさん、保育園にはコワーキングスペース	・女性や若者の起業が盛んで、地元で様々な仕事、ビジネスが生まれている (P148)	・二地域居住やサテライトオフィス、SOHOなど空き家の新たな利活用を誘導するとともに、廃校を職住複合型施設へリノベーションするなど、住み働ける場を充実 (P162)
	地元で様々な仕事、ビジネスが生まれ、働く場所がたくさんあるまちになっている(若者や女性の起業支援)		・インキュベーション施設等の整備を行う事業者への支援や、セミナー・交流会の開催などにより、若者や女性、高齢者などの起業・創業の取組を推進 (P162)
	祭りや伝統文化が、変わらずに(あるいは進化して)受け継がれている	【東京2020大会等のレガシーも生かした、文化・スポーツが盛んなまち】 ・多摩地域の郷土芸能などの普及・継承を推進する担い手が育成されており、伝統文化が、変わらずに受け継がれ、地域のみんなに郷土愛が育まれている (P163)	【地域資源を生かした文化の振興】 ・あらゆる人々が様々な場で創作活動へ参加、鑑賞体験できる機会等を提供 (P165)
文 化	多摩アーティストビレッジ(の整備)		・空き家等に芸術家の活動の場を誘導するなど、既存ストックを有効に活用 (P166)
	アートの拠点や、イベントを自由に企画できる場所を増やす	・歩道や公園などでは、芸術的なストリートファニチャーが随所に見られ、ライブパフォーマンスの舞台として活用されるなど、誰もが気軽に芸術活動を楽しめる場が広がっている (P163)	・公共施設の未利用スペースをアトリエや工房等にリノベーションすることにより、地域の文化活動の場づくりを誘導 (P166) ・学校や公民館等の身近な場所において、様々な分野の芸術家との交流や芸術文化体験ができる「場」を創出 (P165) ・小中学生等を対象とした伝統文化体験プログラムや、伝統文化の真髄を外国人に伝える体験プログラムを展開 (P166)

ワークシヨップにおける主な意見 (未来像や取組の方向性)		プランにおける反映状況	施策の方向性（抜粋）
自然	都心的だけでなく自然の温もりがまちに溢れている（都市と自然の絶妙なバランス）	【豊かな自然との共生が図られ、環境にも優しいスマートなまち】 ・水や緑などの豊かな自然が適切に保全されており、都市と自然との調和が適度に図られている中で、潤いのある住環境が実現（P170） ・生物多様性の保全に向けた取組が進められ、希少種も含めた多様な動植物が生息・生育（P170） ・里山が保全され、環境学習の場として活用され、持続可能性と生物多様性を併せ持つ里山文化が発信（P170） ・豊かな自然環境の中での本格的なアウトドアスポーツが注目を集め、国内外から多くの人が集まっている（P170）	【水と緑の保全】 ・河川の水辺空間での緑化を進め、都市公園や街路樹等と有機的に緑をつなげることで、水と緑のネットワークを更に充実（P172） ・良好な自然や歴史的遺産と一体になった樹林等を保全地域として定め、丘陵地に残る里山や樹林地など、残された貴重な自然環境の保全を図る（P172） ・都市公園・自然公園などを多様な生物が生息・生育できるエコロジカル・ネットワークの拠点にするともに、生物多様性の保全、普及啓発を進める（P173） 【自然公園等の環境整備】 ・ボルドーリングやキャニオニングなど、自然や地形を活用した様々なアクティビティやスポーツを楽しめる環境を実現するとともに、アクセスルートを確保（P176） ・森林セラピーイベントなどの多様な自然体験プログラム等により、生態系サービスを実感し、理解を深める場を提供（P176） ・自然体験を通じて都民が広く生物多様性について学べるよう、都市公園や自然公園などにおいて、環境学習に役立つ施設を確保（P177）
	身近なところにある大自然。里山、緑を大切にしたい		
	自然の生き物残って欲しい（ザリガニ、メダカ、おたまじゃくしなど）		
	多摩の自然を生かした教育、アクティブラーニング。多摩の自然の中で余暇を過ごせるアクティブラプラン		
	エネルギー		
エネルギー	エネルギーの地産地消（自然エネルギーが普通の家で当たり前のように使われている）	【豊かな自然との共生が図られ、環境にも優しいスマートなまち】 ・再生可能エネルギーの導入や水素社会実現に向けた取組、省エネルギー対策などの推進により、エネルギーの地産地消が進み、低炭素なまちとなっている（P170）	【再生可能エネルギー・水素エネルギーの普及拡大】 ・豊かな自然などを活用した、地域特性に合った再生可能エネルギー導入の取組を支援することで、その普及拡大を促進（P179） ・家庭でのエネルギー利用の高度化推進のため、家庭用燃料電池や太陽光発電、エコハウスなどの普及とともに、IoTやAI等の先端技術を活用（P179）
	自然で遊べる人、エネルギーを取り出せる人が増える		

ワークシヨップにおけるその他の特徴的な意見(未来像、取組の方向性)

・首都を多摩センターか立川あたりにしたい ・多摩“県”になる ・自動運転車が移動オフィスに ・毎週金曜日は野菜を通貨に ・多摩のテレビ局（地上波）誕生 ・娘が米国に留学していて、ちよくちよく横田空港（西東京国際空港）に笑顔で帰ってくる ・「多摩の伝道師」養成講座（さかなクンの多摩版を生み出す）→ 伝道師がメディアに露出し、多摩を面白く伝える ・お金やエネルギーに頼らない暮らしをしている。自分で発電できている。鶏のフンでガスが作れる、鶏は食す	・国会議事堂を奥多摩へ ・空いている団地をホテルにする ・セグウェイ（無料）で街をスィスイ ・プレミアムエブリデイの導入（15時退社、多摩限定） ・ロハスエリア特区	・多摩迎賓館を ・ぐるっと多摩線。たまエリアの山手線みたいな線路 ・ドローン配送、気球配送による物流活性化 ・沖縄じゃなくて奥多摩にリゾートオフィスの誘致を
---	--	---

本プランの策定に当たって、都民の皆様や市町村からの御意見を反映するため、平成29年5月29日に素案を公表し、パブリックコメント及び市町村への意見照会を実施しました。

都民への意見募集(パブリックコメント)

【実施期間】 平成29年5月29日から6月29日まで
 【受付数】 13通
 【意見数】 49件

市町村への意見照会

【実施期間】 平成29年5月29日から6月29日まで
 【受付数】 24団体
 【意見数】 118件

〈各章に対する主な御意見・アイデア〉

御意見・アイデアの概要	プランへの反映
Ⅰ章 策定の意義及び策定に当たっての基本的考え方	
「多摩の振興プラン」の位置づけや他の計画との関係性を示してほしい。	(策定に当たっての基本的考え方) (P.3)

御意見・アイデアの概要		プランへの反映	
Ⅳ章 多摩を取り巻く状況			
ポテンシャルが高い観光資源として、狭山丘陵を加えてほしい。		多摩を取り巻く状況（観光） （P.48）	
研究施設が集積している要因として、落ち着いた環境と都心へのアクセス性の評価が高いという点が評価されている旨を記述してほしい。		多摩を取り巻く状況（産業・雇用） （P.50）	
企業の研究施設の集積が強くなっていることを、南多摩エリアの特性として、記述してほしい。		エリア別 南多摩エリア （P.61）	
Ⅴ章 実行プランを踏まえた当面の取組			
第4次事業化計画を着実に推進して欲しい。		(2)	〔取組1〕 主要南北・東西道路をはじめとする道路ネットワークの形成 （P.91）
多くの外国人留学生在学する多摩地域において、留学生の就職支援や、中小企業の人材不足を解消するために海外の大学生の就職支援（高度人材）の視点が必要		(3)	〔取組1〕 イノベーションの創出や地域産業の維持・発展 （P.99）
西南部物流拠点候補地を図示してほしい。		(3)	〔取組1〕 イノベーションの創出や地域産業の維持・発展 （P.99）
Ⅵ章 2020年の先を見据えた目指すべき地域像と施策の方向性			
空き家を保育所や高齢者向け住宅等へ改修するなど、福祉の充実に資する施設としての活用を促進する考え方も必要		(1)	（施策の方向性1）集約型の魅力あふれるまちづくり （P.126）
待機児童の解消については、民間の力を活用した取り組みも積極的に導入すべき。		(1)	（施策の方向性2）子育て環境にすぐれ、高齢者などが安心して、いきいき暮らせるまちづくり （P.129）

御意見・アイデアの概要	プランへの反映
高齢者になっても、安全・安心で健康的な生活を送ることができるよう、ヒートショック等の健康へのリスクが少ない住宅の提供や改修に取り組んでほしい。	(1) (施策の方向性2) 子育て環境にすぐれ、高齢者などが安心して、いきいき暮らせるまちづくり (P.130)
防災力の更なる向上のためには、立川広域防災基地が重要であり、そのための輸送経路が必要	(1) (施策の方向性5) 地域の暮らしを守る防災力の強化 (P.140)
自転車走行空間の整備や自転車シェアリングの普及促進だけでなく、自転車駐車場の整備を促進してほしい。	(2) (施策の方向性2) 公共交通ネットワークの充実と快適な交通環境整備の促進 (P.147)
ホームドアの設置など、鉄道駅のバリアフリー化について、公共交通で快適に生活できるまちの実現という観点から、推進していくべき。	(2) (施策の方向性2) 公共交通ネットワークの充実と快適な交通環境整備の促進 (P.147)
企業による農業参入を促進するべき。	(3) (施策の方向性3) 都市農業の振興 (P.156)
日常的に農業に触れる機会を増やし、学校教育等と連携した体験型のプログラムを実行できる場を作してほしい。	(3) (施策の方向性3) 都市農業の振興 (P.157)
コミュニティビジネスに対する創業支援策を推進すべき。	(3) (施策の方向性5) 身近な地域で働ける環境の整備 (P.162)
「水と緑のネットワーク」を更に充実させてほしい。	(5) (施策の方向性1) 水と緑の保全 (P.172)

御意見・アイデアの概要	プランへの反映
エネルギーの自立や環境負荷低減に役立つ家庭用燃料電池の普及促進を図るべき。	(5) (施策の方向性3) 再生可能エネルギー・水素エネルギーの普及拡大 (P.179)
Ⅶ章 目指すべき地域像の実現に向けて	
従来型のブロック区分だけでなく、鉄道や河川等行政区分を超えて共有している交通・環境・観光資源を軸とした回遊性や地域経済の活性化に寄与するエリア区分の視点も必要	(市町村間の広域連携、多様な主体との連携) (P.182)
用語解説	
専門用語に注釈を加えてほしい。	用語解説 (P.201)

〈その他の御意見・アイデアの概要〉

意見・アイデアの概要
地域の用途別の土地全体をどのように活用するかを考えて、施策を検討すべき。
多摩の大画地問題とも関連づけて、地域と連動した企業誘致戦略を持ち、産業創生、定住人口の確保を図るべき。
交通機関や道路の標識を高齢者にとって分かり易く、日本語を大きくし表示してほしい。